

☆知って得するステキな情報☆ 向井信夫文庫目録とOPAC

■実はOPACの情報の方が詳しい！

向井信夫文庫（以下、向井文庫）のコレクションを閲覧するのに『向井信夫文庫目録』（以下、冊子目録）は便利ですが、頁数が膨大になってしまふためOPACにある情報が全て入れられませんでした。

①「向井番号」で検索してみよう！

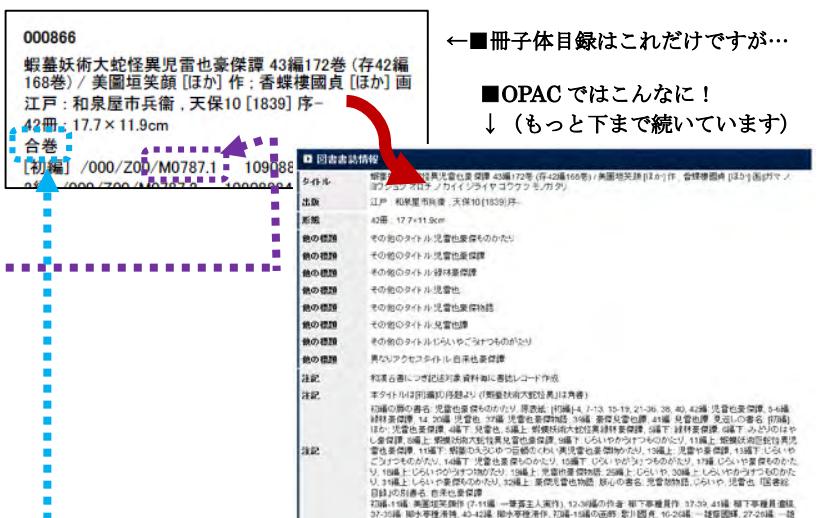
向井文庫（江戸期和本）の請求記号は、NDC（日本十進分類法）ではなく、「M」から始まる「**向井番号**」と呼ばれる番号が付けられています（小数点以下は巻号）。これは、旧蔵者である向井信夫氏が、実際に資料を書架に並べていた順番を元に付けたものです（おおむねジャンルや作者ごとにまとまっています）。

冊子目録で気になる資料を見つけたら、この向井番号を使って詳細な書誌を見てみましょう。



①「検索オプション」を開き、「請求記号」に向井番号を半角で入力して検索

平成29年3月、『向井信夫文庫目録』を刊行しました（本学リポジトリ[SI-Box]でも公開）。この目録とOPACを使いこなすための豆知識をご紹介します。



←■冊子目録はこれだけですが…
■OPACではこんなに！↓（もっと下まで続いています）

■向井信夫文庫とは

*詳しくは図書館HP「コレクション紹介」のページにあります。

在野の和本収集家である向井信夫氏（1916-1993）のコレクション。質量ともに国内有数の戯作（江戸後期小説）を中心とした「江戸期和本」編と、それに関する一般書の「図書」編から構成されています。自身のコレクションが広く学術に役立つようにという向井氏の遺志を受け、2009年に本学に移譲されました。

お手本のお手本

葛飾北斎の代表作の一つである『北斎漫画』（全15編）は、人物、花鳥風月、器物、妖怪などありとあらゆる絵の題材をスケッチした絵手本として高い評価を得ています。専修大学図書館にも明治11年（1878）刊行の『北斎漫画』が収蔵されています。

実は今回ご紹介する貴重書はこの絵手本の更にお手本になったと思われる版本（木版の本）で『芥子園画傳』という中国の画譜です。専修大学図書館には嘉慶（中国の年号）5年（1800）に刊行された二集8巻がありますが、一般的には『芥子園画傳』（初集全5巻・1679年の序文・わが国では寛永2年（1749）の翻刻本がある）などが著名で、国内に広く普及して江戸初期の画界に大きな影響を及ぼ

しました。こうした中国の画譜は不特定多数を対象とした習画法などに絵手本として用いられたようです。

他方『北斎漫画』を含め絵手本は通常、特定の画派が師から子あるいは弟子に伝える習画に用いられたので、手本をもとに臨写を行うことが一般的な習画法でした。『芥子園画傳』の収載図（二集 蘭譜・竹譜・梅譜・菊譜）と『北斎漫画』を比較すると共通性を発見することができるのは興味深いところです。

（参考文献：北斎漫画 東京：東京美術，2002.12-2003.2）



貴重書ってなあに？

◆そもそも貴重書とは？

…資料的に価値が高く、非常に高額であったり、希少性が高かつたりする図書で、図書館において、一般資料とは区別して扱われる。多くは希書であり、保管に際して一般資料とは別置し、何らかの利用制限を設けることが多いが、貴重書の基準は図書館により異なる。（『図書館情報学用語辞典』第4版より一部抜粋）

◆専修大学図書館の貴重書の基準

「一般資料と区別して管理・利用に供する、印刷または記録された資料」という点では変わりませんが、和書と洋書で基準の年代が異なります。

【和書】1900年まで
【洋書】1870年まで

ちなみに、特殊な文庫を除き、請求記号の頭に「A」が付きます。
例) A/721/Ka88 ←何の貴重書でしょう？

◆貴重書を利用方法するには？

複製物がある場合はそちらを利用してください。それによって目的が達成されない場合のみ、現物の利用が可能です。また、写真撮影は原則禁止となります。

【学内者の方】利用したい資料が特別書庫にあることをOPAC等で確認してから、レファレンスカウンターにお越しください。「貴重書利用願」をお渡ししますので、必要事項を記入して提出してください。申請は、利用希望日の10日前までに行ってください。

【学外者の方】所属先の図書館から紹介状を発行してもらつてください（発行には1週間～10日ほどかかります）。利用当日は、それを持参して図書館本館（生田キャンパス9号館3階）へお越しください。所属先のない方は、お近くの公共図書館を通してお問い合わせください。

【お問い合わせ】lib-serv@acc.sen-shu-u.ac.jp（利用サービス係）

夏にまたきた！江戸の妖怪ちよいと集合

8月27日（日）のオープンキャンパスにあわせて、貴重書ミニ展示「夏にまたきた！江戸の妖怪ちよいと集合—向井信夫文庫を中心に—」を開催しました。2016年度企画展「春にやってきた 江戸の妖怪大集合」のリバイバル版で、特に人気のあった5作品を展示し、図書館員による作品解説も行いました。



江戸時代における妖怪絵本の先駆けである『画団百鬼夜行』では、前回の展示での妖怪人気投票第1位「猫また」と第2位「ぬらりひょん」を紹介しました。その他にも『東海道中膝栗毛』でおなじみ返済一九作の『化物太平記』や、妖怪が登場する作品の大ヒット作、蝦の妖術使いを主人公にした『児雷也豪傑譚』、『東海道四谷怪談』の元になった事件をモチーフとした『霜夜星』などを展示しました。

『霜夜星』は挿絵を北斎が描いたということで、秋の企画展「北斎と馬琴」でも展示されますので、ぜひご覧ください。

——「ぶんこ」で扱う資料は、主に貴重書と呼ばれる資料です。創刊号では、その「貴重書」そのものについて取り上げます。

◆なぜ大学図書館に貴重書が必要なのでしょう？

現在では、大学に図書館を設置することが大学設置基準第38条によって定められています。そこでは、図書館は「教育研究上必要な資料」を収集する中心的な機関とされています。

古来、宗教や学問などの知識は、書物に記され、様々な場所へ伝達されてきました。人々は、書物で学び、そして研究してきたのです。洋の東西を問わず、学問の場には必ず多くの書物がありました。知の伝達と創造を目的とする大学を維持していくためにも、図書館は書物を守っていく使命があります。

大学での教育研究は、新しい書物だけでなく古い書物や稀少な書物でも行われます（中には書物の形をしていないものもあります）。大学図書館ではそれを収集・整理し、「貴重書」として適切な方法で保存しています。時代を超えて、海を越え、災害や戦乱をも乗り越えてきた貴重書たちは、学問の発展と、これから社会を担う人材の教育の役に立つことを、特別書庫で待っているのです。



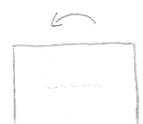
【特別書庫入口】

◆特別書庫ってこんな感じ

専大図書館の貴重書は、特別書庫で保存されます。適切な温湿度管理と防虫対策を行い、利用に制限を設けることによって、資料の劣化を防いでいます。和洋合わせて約2万8千冊収蔵されています。

1分で豆本作り！

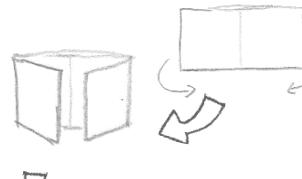
①まずニュースレターの豆本になる面を左右で半分に折り。



③開いてから切った部分が上になるように折ります。



④①の折り目に向かって、両側から折ります。



⑥ぐぐいっ！と押すと完成です！



⑤開いてから両端を持って押していくこんな感じ。